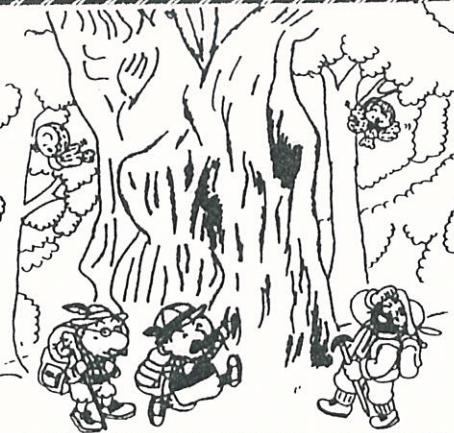


## 本会 縄文杉に思う 日樹木医 現地研修レポート

日本樹木医会二期生会の皆さんが、平成七年十月二十二日縄文杉で現地研修された感想が寄せられましたので紹介します。

岐阜県 山口 清先生  
圧倒される対象木であり、樹体に手を加えることは差し控えたい。但し、杉の周囲にデッキが計画されているとい

う。デッキ建設には杉への影響がないように特に注意して欲しい。また、周辺にはヒメシヤラなど他では見られないような巨樹古木が林立している。これ等も十分に念頭に置いてほしい。デッキの建設が観光客への利便だけでなく、縄文杉の樹勢保護になることを強く望みます。



茨城県 金子晴彦先生  
営林署の話によると、登山道の整備をする予定とのことであったが、整備が進めば観光客はさらに増えると思う。世界遺産としての貴重な自然

を後生に残すためにも、登山者は事前に申請し、自然環境を守るべくルールを理解させてから許可を出すというシステムを考えてはどうでしょうか。

新潟県 佐藤賢一先生

大株歩道では登山者への配慮がなされていた。縄文杉の根元回りの土砂流失防止対策については、人工的な資材は極力避け、現地で採取される資材で対応されることを望みます。神の領域とまでいわれている縄文杉、大王杉等に会うことができ人生観まで変わりました。屋久杉の長寿の秘け

## 屋久島の植物



しきみ (モクレン科)

常緑小高木、全株無毛、樹皮は紫褐色から暗灰色、皮目は褐色で少なく、若木は平滑であるが、老木では浅く縦裂する。葉は互生、香気がある。狭倒卵形又は長た円形、側脈は五から八対で表面に現れる。三月から四月に開花、花柄は長さ約2cm、がく片は花弁と

ともに十個から十二個。果実は袋果で九月から十月に熟して淡緑色。本州宮城、石川以南から屋久島まで分布している。材はろくろ細工、念珠、鉛筆等に利用、枝葉は仏前、墓前に供え、葉は、抹香、線香に利用されている。

つは何なのかという疑問が頭の中を走った。これからの樹木活動の大きな糧を得たような気がします。縄文杉たちに感謝します。

愛知県 大竹弘三先生

縄文杉の観察は、ひとの足体力で汗して自然環境の大切さを厳しさの体験から認識させる原点教室です。登山路は現状のままが望ましいと考えます。危険と厳しさの隣合を認識努力しの見参に感激がある、快適さへの風潮が自然破壊を招きます。人間と自然環境との共生の大切さを実感できる施設保存と管理を念願します。

東京都 市田邦治先生

縄文杉周辺の環境の変化を写真で判断すると、昭和五十五年から五十八年にかけて激変している。高木、中木類を切り、踏み荒らすことにより地被類が喪失し、当然のことながら土壌は流失した。杉は、樹幹に直接太陽光線が当たるときのきらう性質がある、

## 二月行事予定

二日	熊毛地区植樹祭 (永田・松原公園)
五日	置長会議 (局)
六日	(調整官・所長)
十三日	屋久島推進会議

古木は環境の変化が樹勢への影響として出てくるのは遅い。今は枝葉に現れていなくとも、これだけの環境の激変に影響がない訳がない。縄文杉の保全対策として、観光客に配慮しながらできるだけ元の環境にもどすべきと考える。



## 白谷雲水峡歩道補修工事始まる

白谷雲水峡内の原生林歩道と楠川歩道の補修工事が始まりました。

この工事は両歩道が入り込み者の増大に伴い荒廃が著しいために、傷みの程度に応じて補修するものです。



工事は原生林歩道が全長約二千メートル、楠川歩道が町道白谷線分岐点から辻峠まで約三千二百メートルを普ながらの自然石を利用して行います。工事は三月末完成の予定です。